

# 風の流れ

【短歌】  
楠瀬 兵五郎 選

ほとばしる庭の蛇口に鎌洗ふ刃先にきらりはつ夏光る

「大屋根はみな寺にして風薫る」文学のこみち読みつぎ下る

小さき者見ればわが顔ほころびぬ歳のせいかと悲しくもあり

百キロのケイカル運び田にまきぬまだまだがんばる七十五才

天を仰ぎ咲きそろひたるいぬのふぐり空より色はもらひしならむ

忘れぬし幼き頃のあれこれの浮かぶ夜なり遠蛙鳴く

横に舞ひ 従に舞ひつつ桜花夢を残して池の面に散る

プリンひとつ両手に包みぬくめつつ病舎の母のもとへと急ぐ

病む夫の手を引き渡る青信号老老介護の通院の道

うつつと畑も打たず茶も摘まず早連休も過ぎてしまひぬ

初夏の風はさやかに国分寺の観音さまの頬のやさしさ

ダム湖の路刈り残されし雑草に葶の花ひとつ可憐に咲けり

山中の色鮮やかな新緑のかおりにむせて苗運びおり

母の日は「何もできない僕ですが元気でいて」とメールを呉るる

吾が一生カウントダウンか気の減入る後期高齢者保険証見る

失いし声はすべなし好きなればテレビに映る恋の唄きく

リハビリに二時間体繕いて止むに止まれぬ農八十路一徹

新しき鶏小屋建てて日当りよし初夏の朝に声高く鳴く

食卓にぼたんの花をさしし今朝ほのぼのとしてひとりほお笑む

リハビリの進みて今日は松葉杖歩行訓練の廊下の長し

同室に良き友居りて救われぬ難聴の吾の慰めとなる

古川 安子

北村佐喜子

大石 綏子

門田 明子

公文 正子

高橋 章

武内 弘子

竹村 咲子

出原 久子

松中 賀代

吉本 悦子

谷内 務

公文 千恵

山崎 貴子

坂本 好

門田 喜美

高野 和一

小野寺朱実

有沢 春江

小原 子川

鍵山 春子

何十歩も歩めぬ夫に届きたる軍人恩給欠落者慰労旅券

梅雨ばれに眼科の検査満点の視力に心晴ればれとなる

缶ビール小さき一つに酔いまわり西陽高きに床に横臥す

姿無き鴉が頭上に鳴きさわぐ椎の花散る氏神の杜に

狍犬に獅子の像置くホテルには由緒ありげなテナントならぶ

新しきレオパレスまた建ちてをり駐輪場の風に吹かるる一台

牧水の歌が脳裡にうかび来て視野が広がるみどり水色

はなやぎを椎にゆづりて桜木は見るかげもなく山に朽ちゆく

犬槇を特攻機型に剪定し知覧の館吾を迎える

人は病み荒るる畑の草かげに咲きて残れる牡丹ひと花

下り立てば峽の田幾枚稲育ち家居ひそけく行き交ふ燕

桃の花ほおえむ如くほころびてひいなの前に幼ら遊ぶ

11の数字に友を呼び出せば今石鎚と鳥の声する

末期とは言はで後期高齢と言うが御国の御情けなるにや

川向うのしだれ一本枝のびて間もなく咲くを楽しみて待つ

となり家の紅椿にわがさすミカン目白はコース定まりて来る

招待で娘らに誘われ道後の湯鳴るケイタイに運転の婿は忙し

健康の秘訣は笑ひをたやさぬことせめて笑はむ不安の日々を

脚一つ乱れぬ舞踊 障害者中国芸術団の千手観音

水菜しやしやしやき海老はぶりぶり歯応への夕餉樂しや夫と娘のゐて

水色のわすれな草の野の花が良心市に売られてをりぬ

スキの丘仙石原は想像をこえて拡がるカルデラ湖跡

JAの女性作りしおむすびに工科大生喜ぶ笑顔

ひとり来て君がみ墓に燻ゆらせる香尽くるまで身ぞうつつなき

羨しみて仰ぐ三嶺溪へだてミヤマヤナギの絮のただよふ

大岸由起子

岡村 和躬

池内 松美

佐々木真里

伊藤 清子

都築 初代

古谷 由美

小野川恵仁

宮地 亀好

小松もとみ

坂上のぶ子

森 晶子

法光院俊子

岡林 華伝

山崎 緑

尾立 かよ

横田直加子

有沢 泰子

竹村 稔美

大石さち子

山下 弓枝

佐竹 玲子

森本真理子

鍵山 みつ

楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。

# アーティストの窓



## 「現代を描くー絵画展」

7月12日(土)～  
8月10日(日)

高度に発展した現代社会の中で生きていく私たちは、世界で次々と起こるさまざまな出来事と、無縁では生きていけない状況にあります。

戦争を体験し、それを乗り越えてきた世代、高度経済成長期・バブル崩壊後の低成長期を生き延びてきた戦後生まれの昭和世代、そして平成生まれの若者世代。それぞれの世代のそれぞれの個人が、世界や日本社会、家族とのかかわりの中で生きています。社会状況の変化の中で私たちは、さまざまなことを感じ、考え、時には怒り、悩みますが、日々の生活に追われ、しばらくすると、そのことを忘れてしまいます。

アーティストは、この日々

感じ考えたことを、目で見える形にして私たちに見せてくれるのです。それは、人間が生きていく上でぶつかるさまざまな事柄であり、社会的なことから私的なことまで多種多様な表現があり、そして、その中に「生」や「死」という、人間であれば避けて通れない重い命題も含まれているのです。

写真の作品は、神奈川



県在住のアーティスト、福島せつさんの「風の座標・TEN」です。弟の子どもを誕生を待たなかったかのように亡くなった

母親の姿に、「命の世代交代の波」を感じて描いたという大作です。

今回は当館の新収蔵品を中心に展示しています。アーティストがこの時代に生きて、感じ、考え、表現した作品に直接向き合っていたかどうかと重ねて、共感、感動していただけるのではないかと思います。

展示室には、上田奈保・小作青史・小原義也・加藤勝久・川崎太一・草間彌生・谷岡久・中林忠良・日和崎尊夫・深沢幸雄・福島せつ・藤島晃一の絵画が並びます。

また、西村陽平のインスタレーション、三島喜美代の陶彫、渡辺浩二の彫刻も同時展示しますので、お楽しみください。

多くの皆さまのご来館をお待ちしております。  
(館長・北 泰子)

## 吉井勇記念館のイベントのご案内

### 星祭〜旧七夕まつり〜

吉井勇が初めて猪野々を訪れたのは旧暦の七夕の日。色とりどりの短冊が風に揺れ、その風情は捨てがたいものだったといえます。

吉井勇記念館では、旧暦七夕(今年は8月7日)を中心に、当時勇が見た昔ながらの懐かしい七夕飾りを、猪野々活性化委員会、猪野々老人クラブの協力によって再現します。また、市内の小学1・2年生が書いてくれた短冊も一緒に飾ります。期間中は、当館で用意した短冊に、願い事や短歌・俳句を書いて飾ってください。昔を思い出しながら、ご家族で楽しんでいただけたいと思います。

#### 【開催期間】

8月7日(木)～11日(月)

※8月9日(土) 19時より、猪野々活性化委員会の皆さんが、記念館付近の水路に松明を灯します。幻想的な

夜をお楽しみください。

(雨天の場合は、翌10日(日)17時～)

【場所】 吉井勇記念館および周辺地域

### 吉井勇書簡展

勇は隠棲時代、猪野々から知人に宛ててたくさんの手紙を出しています。

書簡は、彼の交友関係や当時の住まいを伝えるだけでなく、味のある筆跡によって見る者を楽しませてくれます。

記念館では、勇の夏を詠んだ掛軸や短冊の展示に加え、猪野々隠棲時代知人に出した書簡を展示します。ぜひ、ご来館ください。

#### 【開催期間】

7月30日(水)～8月25日(月)

【場所】 吉井勇記念館

#### 【問い合わせ先】

吉井勇記念館  
☎ 58-2220



《おはなしの会》へ参加しませんか

◆山田おはなしの会◆

学校や地域で読み聞かせをされている方、おうちで子どもたちに読んであげている方、聞いて楽しみたい方、絵本の好きな方ならどなたでも参加できます。新しい発見がきっとあります。

【日時】

奇数月第3水曜日

9時30分～

【場所】

市立図書館

【問い合わせ先】

市立図書館

☎ 53-0301

◆どんぐりの会◆

ちいさな子どもとその保護者のためのおはなしの会です。おはなしの後、親子でいっしょに紙のおもちやなどを作ります。お気軽にご参加ください。

新着本の紹介（市立図書館）

〔大人向け〕

▽ゴールデンランパー（伊坂幸太郎）▽遊女のあと（諸田玲子）▽流星の絆（東野圭吾）▽誰も書けなかった防衛省の真実（中谷元）▽裁判員法廷（菅辺拓）

〔子ども向け〕

▽ふしぎなキャンディーやさん（みやにしたつや）▽ぼくがラーメンたべるとき（長谷川義史）▽ともだちおまじない（内田麟太郎）▽ふってきました（もとしいづみ）▽悪魔のりんご（舟崎克彦）

おすすめの

1冊

岸豆

（著：吉村淑甫／風日舎）



こんもりした草木に埋もれてしまいそうな今の府内、白石地区。かつて幼少期をここに暮らした著者が、当時の人々の生きざまを情緒豊かに再現したこの本は、この在所にゆかりのある人にはぜひ手にしていただきたい1冊です。

忘れていた昔の人たちの余韻ある声や足音が、今の私たちの心に安らぎを与えてくれると思います。

ペンネーム 萩野詩乃さん（香北町白石）

香美地区短詩型文学振興大会 作品募集

「平成20年度香美地区短詩型文学振興大会」が開催されますので、次のとおり作品を募集します。

皆さんのご応募お待ちしております。

【日時】

9月21日（日） 13時～

【場所】市立中央公民館

【募集作品】

短歌：二首以内

俳句：三句以内

川柳：三句以内

※大会当日まで未発表作。

できるだけ大会当日はご参加ください。

【対象】香美、香南市内に在住または在勤の方、並びに出身者。

【送稿方法】

ハガキ（ハガキ大の用紙でも可）に作品を必ず楷書（新旧かな遣いを表示のこと）で書き、各部門別と作者の氏名・住所・電話番号を明記して、下記へお申し込みください。

【締切日】

8月15日（金）

じんけんコンサート 開催

「部落差別をなくする運動強調旬間」にあわせ、シンガーソングライターの森秀一さんを招いて、じんけんコンサートを開催します。

皆さんのご参加お待ちしております。

【日時】7月18日（金）

開場：19時

開演：19時30分

【場所】

保健福祉センター香北

【出演】

シンガーソングライター

森 秀一さん

黒潮町生まれ。20歳から音楽活動を開始する。一時、音楽活動を停止するが、旧佐賀町で開催された同和教育推進講座をきっかけに、自分でできる人権活動をしたいと思い、活動を再開した。その後、地区外開放祭り「魂拓人」を立ち上げ活動中。

【問い合わせ・申込先】

教育委員会 生涯学習課

☎ 53-1082